

倫理審査委員会 平成20年8月8日

申請者	泌尿器科部長 奈須 伸吉
受付番号	38
課題名	網羅的遺伝子解析に基づく腎細胞癌研究
研究の概要	腎細胞癌の分子機構を明らかにし、その中から治療の対象となる遺伝子の同定を目指す。 外科的に摘出された組織(腫瘍部と同時に摘出された正常部)からLaser-captured microdissection(LCM)を用いて顕微鏡下に目的の細胞のみを切り取り回収して、DNA、RNAを抽出する。DNAをアレイ comparative genomic hybridization (アレイCGH)法により、網羅的に解析することで腫瘍細胞のゲノムにおけるDNAコピー数の変化領域を特定する。そしてそれらのゲノム増幅領域、ならびに欠失領域の中から腫瘍の発症、悪性化に関わる遺伝子を同定し、その分子機構を解析する。
判定	計画どおり承認

申請者	副院長 穴井 秀明
受付番号	39
課題名	H2およびH3の肝限局性転移を有する結腸・直腸癌における術前化学療法(mFOLFOX6+B evacizumab)の有用性および安全性の検討
研究の概要	海外で行われたいくつかの臨床試験によって、がんの縮小効果の高いFOLFOX療法を行うことで切除不能肝転移巣(手術ができない病態)が切除可能(手術ができる病態)となったと報告されています。切除可能となった症例では、化学療法だけでは得られない治癒の可能性、あるいは大幅な生存期間の延長が示されています。 FOLFOX療法にベバシズマブを併用することでさらに予後が改善されることが期待されますが、現時点で、この治療法が肝転移に対してどのくらいの効果があるのかわかりません。 以上のことから、肝転移のみを有する大腸がんにおける、手術(肝切除)前mFOLFOX6+Bevacizumab療法の有効性と安全性を調べることが、この試験の目的です。
判定	計画どおり承認

申請者	副院長 穴井 秀明
受付番号	40
課題名	StageⅢ結腸癌(直腸S状結腸部(RS)を含む)に対するカペシタビン術後補助化学療法の安全性確認試験
研究の概要	<p>この試験では、ステージⅢ結腸がん手術後の新たな標準的な治療法とされるカペシタビン療法を8コース行う試験です。</p> <p>日本におけるステージⅢ結腸がん手術後のカペシタビン療法は認可されたばかりで治療経験はまだ少ないため、日本におけるこの治療法が海外で報告されているように、安全性に優れた治療かどうかを確認するために実施します。</p> <p>また手術で切除した組織を保存・調査させていただくことがあります。</p>
判定	計画どおり承認

申請者	呼吸器科部長 仲間 薫
受付番号	41
課題名	気管支喘息患者に対するブデソニド吸入剤の製剤特性の検証
研究の概要	<p>吸入ステロイド薬であるフルチカゾンで長期管理を受けている気管支喘息患者を対象にフルチカゾン、ブデソニドの2群に割り付け、ブデソニドの有効性、安全性について検証する。</p>
判定	計画どおり承認